

ましゅまろみたいな ましゅまろ。

azu feeling

— 君がいるだけで —

ましゅまろと暮らして早くも半年が経過した。色々と考えた結果、去勢手術もした。術後はなんだか慣れないようで自分のお股を見ては「ガーン」というような表情をしていた。ましゅまろには悪いが私はだいぶ笑わせてもらった。ひと月も経つと、あんなに気性が荒かった彼がだんだんと落ち着いてきた。マーキングもしなくなり、頭を悩ませた家具破壊もだいぶ少なくなった。その頃のましゅまろのあだ名は「破壊神」だった（笑）

最近の日課は作業の合間にソファでましゅまろとお昼寝をする事。私が、「ましゅ、お昼寝しよ」と言うと、ソワソワしながらソファに飛び乗ってきて私のお腹にぴったりくっつく。一つ面白いことがある。彼にはリラックスタイムの必需品があって、それを必ずソファに持ち込むのだ。それは冬に妹がくれたピンクの丸いクッション。彼はこのクッションがかなりお気に入り、寝るときも、日向ぼっここの時も、私とお昼寝タイムにも絶対にこのクッションを持ってきてカミカミおしゃぶりしながら寝る。毎日肌身離さずカミカミしている為、もはやピンク色の面など残っていない。真っ黒でポロボロの上、ハッキリ言っただいぶ酷い雑巾の臭いがする。そのクッションを持ち込んでソファで添い寝するとき、ちょうど私の鼻の前あたりにそのクッションが来るのだ。

心地よい春風の午後、いつもの様にましゅまろとお昼寝をした。

ふと気がつくと、私は船の中にいた。おそらく船室で薄暗く、使用人のような格好をした女性たちに囲まれて私は何やら聞いたことのない言葉で怒鳴られていた。トタンバケツの中には汚れた水、使い古されたデッキブラシのような物。端にはコーヒー豆を入れる麻袋のようなものが山積みになっている部屋だった。私は掃除をサボって怒られているのか？ よく分からなかったが、私を囲んでいる使用人らしき人物達の中で一番キツそうな顔をした女性が私にバケツの水を頭からかけた。

バッシュアアア！

ハッと目が覚めると、自分の部屋のソファだった。隣には私より驚いた顔でこちらを見つめる寝癖だらけのましゅまろくん。私の目の前にはきったないクッション。

なんだか学生時代を思い出して少しドキドキしてしまった。何もない田舎出身の私は、学生時代の人間関係に色々と思ひ出したいくない経験があった。私の作品作りの根底にはいつも「孤独」というテーマがあって、曲作りはまさに自分にとってセラピーのようなものだった。そんな感じて年齢だけ大人になってしまった私は、いまだにどこか他人に心を開ききれず、傷付かないように距離をとってしまう自分がいる。

そんな私だが最近心境の変化があった。一番のタイミングはこの自粛期間。世界中が混乱に陥り、多くの犠牲者が出て、リスクを抱えて前線で仕事をする医療従事者の皆様や今日も働いてくださっている皆様に最大の敬意と感謝をお伝えした上で、私は今感じている気持ちを言いたい。

正直にいうと、私はこの自粛期間でとても自分らしさを探究できたと思う。STAY HOME の時間の



多くをヨガや瞑想に使ったり、母と家庭菜園をして土を触った。家を大掃除して、キッチンの棚をDIYした。誰もいない夕方のあぜ道をましゅまろと散歩した。お花の匂いが大好きな彼は、私に今まで気付かなかった野花を教えてくれる。「早く行こ！早く行こ！」とばかりに振り向いては舌を出してニコニコしている。空はいつもより澄んで見え、風に抱きしめられている感じがした。お気に入りのプレイリストを流しながら、なんて贅沢な時間なんだろうと思った。他人から見て、幸せそうだねと思われるよりも、自分が一番そう思いたい。そんな人生にしたい。そう強く思った。

私たちに休憩が必要なように、きっとこの星も休日が必要だった気がする。地球の休み時間。青々とした野菜達や、力強い雑草を瞬でこんなに大きくしてしまう大地には、エネルギーが充ち満ちている。太陽のパワー、雨のシャワー、種を運ぶ風。夕焼けに深呼吸した。

「過去はアルバムにしまって、全ての経験を許して。そして何より自分のことを許してあげて」

頬に当たる風はそう教えてくれた。涙が乾いていく。ましゅまろが不思議そうにこちらを見上げて

いる。つい最近読み漁った本にこんなことが書いてあった。動物達はいつも変わらず同じエネルギーを出していると。その中でも犬は、「寄り添い、貢献」のエネルギーだそうだ。きっと私はましゅまろのエネルギーにとっても救われているんだと思う。この星は東の間の遊び場で、長いように思えて実は一瞬の煌めきなのかもしれない。幾千の星を旅してきてようやく今この時間この一瞬を一緒に過ごしている。ましゅまろの瞳を見つめると、なぜかすごく懐かしい気持ちになるのだ。

今回の地球の旅で、ましゅまろを見つけてられてよかった。これを読んでくださっているあなたが、見つけられてよかった。

ましゅまろ、君がいるだけで、今日も良い日になりそうな気がするんだ。ありがとね、ありがとう。

ところで、そのきったないクッション、そろそろ洗ってもいいかい？



azu feeling … 1989年生まれ、長野県出身。両親の影響で幼少期より洋楽を聴き、ピアノやドラムなど楽器に触れる。15歳でボーカルに転身。自ら作詞作曲を手がける。2016年、映画の主題歌を含むファーストアルバムでメジャーデビュー（AZUSA WATARI名義）。2018年、単身渡欧。語学を学びながら各地のアーティストとの交流を通じ制作活動に邁進。2019年秋、アーティストネームを渡梓（AZUSA WATARI）からazu feelingに改名。現在も長野県を拠点に国内外で活動中。web … <http://www.azusawatari.com> azu feeling 楽曲 … <https://music.apple.com/jp/artist/azu feeling/1484307116>